

学生の授業評価について (2)

今 井 裕 子

A Study of Evaluations of the University Education by Students (2)

Yuuko IMAI

Key words: 授業評価 evaluation of the university education, 学生 Student, 成績 score of examination

1. は じ め に

筆者は学生が授業をどのように受け取っているか知る手だてとして、最終授業でアンケートを行っている。通常は学生の忌憚のない評価を得るため無記名で行っており、授業評価や授業効果、学生自己評価などは質問項目毎の集計結果のみで判断していたが、この度、たまたまアンケート回答者を確定することができた。受講学生による授業評価・自己評価と授業成績の関連において興味ある結果を得ることができたので、報告する。

2. 調 査 の 概 要

2-1 調 査 科 目

平成14年度前期の被服構成学とした。この授業は、講義形式だけでなく、パターンメイキングやグレーディング、マーキングに関しては理解を深めるため、個人作業とグループ作業による演習を組み入れた。さらに、立体化の手法など専門用語の説明の際もイラストに加え、実物を見せるように工夫をした。

2-2 調 査 対 象

平成14年度前期の被服構成学を履修した本学生生活化学科1年生30名

2-3 調 査 方 法 と 実 施 時 期

無記名のアンケート調査とし、平成14年7月下旬の被服構成学試験中にアンケート用紙を配布し回収した。有効回答は28名であった。

2-4 アンケート項目

本アンケートの設問項目は、授業内容に対する「授業に関する項目」と学生自己評価である「学生に関する項目」の2種類であり、島名氏の授業評価シート¹⁾を参考に作成した前報²⁾と同じシートを用いた。自由記入欄も設け、学生の感想や意見を尋ねた。調査内容は、次のとおりである。

○ 授業（授業評価）に関する項目

- ①説明がわかりやすくまとまりがある
- ②授業が興味深く触発されることが多い
- ③熱意があり、学生に対し関心が深い
- ④声の大きさ、口調は適当で聞き取りやすい
- ⑤黒板の使い方、字の大きさは適当である
- ⑥授業を静粛に保つ配慮がある
- ⑦参考資料、ビデオなどの使用が効果的である
- ⑧授業開始、終了時間は適当である

○ 学生（自己評価）に関する項目

- ①授業の予習・復習をしている
- ②いつもこの授業に集中している
- ③学んだことをきちんとノートにとっている
- ④私語で他人に迷惑を掛けないようにしている
- ⑤欠席や遅刻しないように心がけている
- ⑥この科目に深い関心を持っている
- ⑦内容を実生活に役立てよう努力している
- ⑧わからないことは、調べわかれようとしている

○ 自由記入欄

印象に残ったことや、興味がわいたこと、授業について意見があれば記入させた。

2-5 項目の評価と分析方法

設問項目の評価は5段階評価とし、評点は1を低い、3を普通、5を高いとした。

アンケート回答者の授業成績が@・Aの上位グループと成績がB・C・Dの下位グループに分け、EXCEL統計およびSPSSを用いて、項目ごとの単純集計、平均値、独立2群の平均値の差によるt検定、分散分析、重回帰分析を行った。

3. 結果と考察

学生によるアンケート回答結果を授業成績グループに分け、授業に関する項目（以下「L」とする）と学生に関する項目（以下「S」とする）の結果を表1、図1および図2に示した。

3-1 授業（授業評価）に関する評価

授業に関する項目の評価値は全て3.0以上で、学生に

関する項目の評価値に比べ高く、この傾向は前報²⁾と同じであった。

全学生による評価平均値を見ると、L8が4.2と一番高く、次いでL5の4.1、L4の3.8、L6の3.7、L3の3.6の順であった。低い項目は、L2とL7の3項目で同じ数値の3.3となった。

授業成績グループ別にみると、L2において、成績別グループによる評価平均値に1%の危険率で、また、L1において5%の危険率でそれぞれ有意差が認められた。授業成績の良い学生はこの授業にとっても興味をもち彼ら自身も何かを得たと満足している、あるいは授業に深い興味をもち触発されることが多かった学生ほど授業成績が高くなった、と考えられる。いずれにしても、授業成績が上位の学生は、当該授業を興味深かったと評価しているので、今後も彼らのような学生のためには授業内容を易しく薄める必要はないと判断する。

一方、授業成績の低いグループが低い授業評価を出

表1 学生による授業評価表

グループ		授業に関する項目									学生に関する項目								
		L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	平均	S1	S2	S3	S4	S5	S6	S7	S8	平均
上位	平均値(X)	3.6	3.8	3.8	3.7	4.1	3.5	3.4	4.1	3.8	2.0	3.6	4.3	3.9	4.4	3.9	3.5	3.2	3.6
	分散値(s)	0.86	0.80	0.80	0.84	1.15	0.42	1.02	1.05	0.44	0.77	0.71	0.53	0.99	1.02	0.69	1.19	0.80	0.37
	標準偏差	0.89	0.86	0.86	0.88	1.03	0.63	0.97	0.99	0.64	0.85	0.81	0.70	0.96	0.97	0.80	1.05	0.86	0.59
下位	平均値(X)	2.9	2.7	3.5	3.9	4.1	3.6	3.1	4.2	3.5	1.6	2.4	3.1	2.8	3.2	2.9	2.9	2.6	2.7
	分散値(s)	0.29	0.53	0.88	1.05	0.84	1.02	1.05	0.80	0.28	0.57	0.55	1.05	0.34	1.10	1.05	0.99	0.71	0.27
	標準偏差	0.52	0.70	0.91	0.99	0.88	0.97	0.99	0.86	0.51	0.73	0.72	0.99	0.56	1.01	0.99	0.96	0.81	0.50
		※	※※									※※	※※	※※	※※	※※			※※

※：上位と下位グループ間に危険率5%で有意差が認められる
 ※※：上位と下位グループ間に危険率1%で有意差が認められる

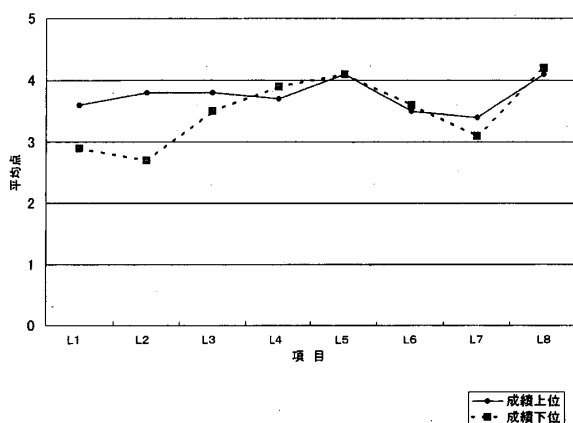


図1 授業に関する項目

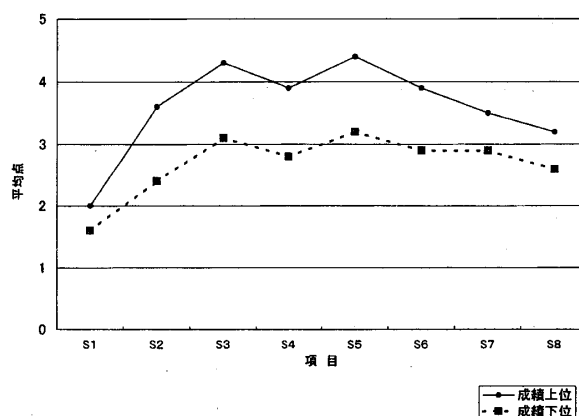


図2 学生に関する項目

した項目についても考える必要がある。成績が比較的低い学生も教師の授業への熱意や板書、声の大きさなどは評価しているが、L2は2.7と特に低く、授業の説明もわかりづらかったことも判った。成績が下位の学生に対して、被服構成学の専門用語や語彙の意味を理解させるなどの工夫を検討したい。

授業への興味に差がでる理由として、1つは学生の理解力の差が挙げられる。また、高校までの被服教育の質的、量的な差も大きいと思われる。高校までに出てくる専門用語の中で、例えば後述の自由記入欄で出てくる言葉に「ギャザー」がある。学生の体験から「ギャザーのある服」を見ているが、「ギャザー」という言葉とその形を知らなければ、中身を連想できず、授業への興味も湧かなくなるという悪循環に陥りやすい。ギャザーの記入のあった学生は専門用語で話せたことを喜んでいることから、専門用語を知ることにより、コミュニケーションが円滑にできること、すなわち、自分の考えを相手に伝えたり、相手が伝えたい意味を自分で理解できるようになることに気付かせることも、授業への興味付けには大切である。

3-2 学生（自己評価）に関する評価

表1から、学生（自己評価）に関する評価平均値は、授業に関する評価平均値より低い傾向にあった。全学生平均値が高いのはS5の3.8で、次いでS3の3.7だった。

評価平均値の低いものはS1で全学生平均値は1.8と際立った。次いで平均値2.9でS8と、平均3.0のS2だった。

評価は学生の自己評価のため、S5に対して、欠席回数4回の学生2名のうち1人は「ほぼできている」の4と評価をし、もう1人は「普通」の3を選んでいて。一方、皆勤学生では、ほとんどの学生が「できている」と最高の評価5を選んでいて、が「普通」評価の3としている学生もいた。このように学生一人一人について個々の評価の意味を考えるには無理があるように思われる。しかし、評価平均値で見ると、授業中に板書をノートに書き取り、わからないことでも自分から進んでわかってとせうにいる学生は、その受講態度が自己評価の数値として現れる傾向にあるように思う。自己評価の低い学生は、学生のわかってとする努力はあまり期待できないので、授業に関心を持たせるよう必要に応じ宿題や課題を出し、レポートの提出を求める必要があるだろう。

授業成績グループ別に学生自己評価を見ると、S2, S3, S4, S5, S6という5項目に1%の危険率で有意な差が認められている。残る3項目においても、成績の上位グループが自己評価も高い傾向にあった。このように、授業成績と受講態度に関する学生自己評価の間に強い正の相関が認められた。

このことから、授業評価を無記名のアンケート形式で実施する場合には、学生の自己評価項目を入れる必要があると思われる。

授業成績の下位グループの学生は、上位グループに比べて、学生（自己評価）に関する項目の評価が低い傾向にあり、授業成績の下位学生は、自分の授業を受ける態度を低く評価していることが確認された。これは、試験のできが悪かった学生は授業を振り返っての反省と考えられ、学生は自己認知ができていていると思われる。

さらに、授業成績の下位グループの学生は、上位グループに比べて、授業に関する項目の評価も低い傾向にあった。自己評価が低い学生は授業に関する項目の評価も低い傾向にあると推察され、この点については詳細な分析が必要である。

一方、成績上位グループについて見ると、成績A判定の学生は、その半数が、学生自己評価値と授業に関する評価値が同程度であるのに対し、@判定学生の半数は、学生自己評価が授業に関する評価平均と同じか、上回る評価値を出している。

このことから、成績評価の高い学生は授業への意欲と自覚が高く、授業に対する評価は比較的厳しくなる傾向が伺えた。授業内容を吟味しないと、授業に集中している学生の授業に対する評価が落ちることが予測され、成績評価の高い学生の学習意欲を落とさず、成績評価の低い学生の興味を喚起できるような授業内容を考える必要が指摘されている。

3-3 授業評価と学生評価のかかわり

「授業に関する評価」と「学生に関する評価」と成績グループとの関連性について検討した。2要因（授業と学生、8項目）が対応、1要因（成績グループ）が独立で、くりかえしのある3元配置の分散分析を行った結果、1%の危険率で要因1（授業と学生）と要因3（成績グループ）間の交互作用が有意となった。つまり、成績が上位または下位ということと、授業評価と学生評価との間に、交互作用があるといえる。この関係を、図1および図2から推測すると、成績上位グ

ループは、学生自身の評価も高く、授業評価も高くなる傾向にあると推察される。

次に、授業に関する項目に対して、学生評価のどの項目が関連するか検討した。成績グループ別評価で有意差が認められた項目 L1 と L2 に着目し、学生に関する項目を独立変数として、ステップワイズ法による重回帰分析を行った。L1 には S5 と S6、L2 には S1、S2 および S6 が説明変数として得られた。S1 と S2 間、S5 と S6 間に相関は認められなかった。S2 と S6 間、S2 と S5 間の相関係数が 1 に近かったが、これら 4 項目の組み合わせを変えながら、評価点を合計し、上位・下位グループに分けて検討した。

あらたに、S1、S2 および S6 の評価点を合計し、1～7 点を学生 3 項目下位グループ、8～15 点を学生 3 項目上位グループの 2 つに分けた場合、図 3 に示したように、学生 3 項目評価による授業評価傾向は成績別評価の傾向に近似している。S1、S2 および S6 の評価点の合計が高い学生は、L1 および L2 の評価も高く、学生 3 項目が低い学生は授業評価も低い傾向にあるといえよう。

今回は、学生成績結果と学生自己評価を関連づけて検討できたが、通常は無記名であり、成績結果との比較はできない。今回のデータだけでは、学生評価のどの項目が授業評価の上下に関与するかを言及するにはいたらないが、授業評価をする場合、授業に関する評価項目に加えて、学生自身による評価項目、特に今回の S1、S2 および S6 など併せ調査する必要がある、授業評価結果をみる場合は、学生の自己評価の上位・下位別に、検討することも必要であるといえる。

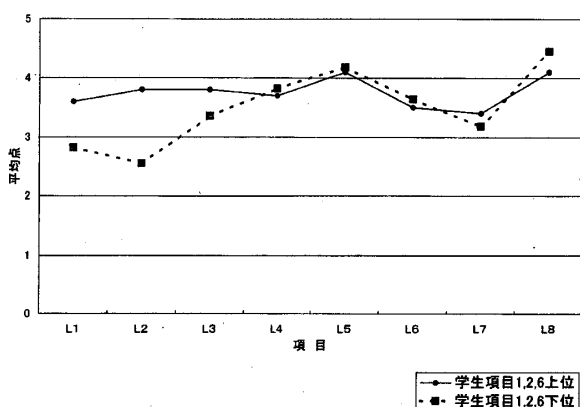


図3 学生3項目グループ別による授業に関する項目

3-4 自由記入欄

学生からの声の中で、印象に残ったり興味がわいた

ことなど主なものを次に載せた。

○授業全般について

難しかった。授業は楽しかった。内容が1回ごとに濃かったと思うし、仕事の流れといったことまで勉強をして、とても役に立つと思った。ファッションビジネスで習うこととかぶっていることがあったので、よく理解することができた。授業でやってきたことが服を作る時に役に立ちそうなので、前よりうまくできそうです。その日の気温や天候により着る服を考えるようになった。簡単にできると思っていた服作りは、大変なことだと思った。様々な人の手が加わった服は大切にしないといけないと思った。

○資料について

プリントを無くして困った。

○専門用語に関して

覚えることばかりで、全然覚えられなかった。ギャザーとか言葉の意味を知っていると店員さんの話がすらすら聞ける。用語の意味を知ることができたので、勉強になった。衣服を買う時サイズ表示を気にしてみようになった。人台の部分に一つずつ名前が書いてあって、ビックリした。

○演習について

生地実際に触れてみたので印象に残っている。グーツ展開は難しかったけど、それが完成するとすごく嬉しかった。グレーディングが理解できたら、けっこう楽しくなった。実技を交えてやるのは、より印象に残って良かった。1枚の紙の上になんなパーツを置いたのは、パズルみたいでおもしろかった。1人で困難な事を皆で協力できたので良かった。

上記のように、勉強になったことやおもしろくなったきっかけについて記述があり、授業する者として嬉しく思った。

この授業では、履修学生の基礎知識量に差があるので授業を円滑に運営するために、演習の1つに1人での作業と、グループでの作業を取り入れる工夫をした。それに対し、学生から良い反応があったのは、収穫であった。

また、この自由記入欄に寄せられた苦情の内容を検討し、来年度の授業に活かしていきたい。

4. ま と め

授業評価の1つとして「授業に関する項目」と「学生に関する項目」を被服構成学受講学生にアンケート調査を行った。回答を学生の授業成績により2グルー

ブに分け、それぞれの項目の評価平均値を分析した。

授業に関する質問項目については、8項目中4項目で成績上位グループは授業評価平均値が高い傾向にあり、特に「授業が興味深く触発されることが多い」という項目において成績別グループによる評価平均値に1%の危険率で有意差が認められた。授業成績が上位の学生は、当該授業に興味深かったと評価しているので、今後も彼らのような学生のためには授業内容を易しく薄める必要はないと判断する。一方、授業成績の低い学生に対しては被服構成学の専門用語や語彙の意味を理解させるなどの工夫が必要である。

学生自身の授業態度に関する質問項目では、8項目中5項目で1%の危険率で成績グループ間に有意差があり、回答学生の授業成績と学生自己評価に強い正の相関が認められた。授業成績の良かったグループは、学生自身の受講姿勢も良かったと自己評価する傾向にあった。一方、授業成績の低かったグループでは、試験終了時に調査したことから、学生自身が提出物の評価や試験のできが悪かったと感じ、受講姿勢に厳しい自己評価を行ったと考えられる。

また、授業成績のグループと授業評価と学生自己評価の間に関連が認められた。特にS1, S2およびS6の学生3項目評価による授業評価傾向は成績別評価の傾向に近似した。今回の調査だけでは、学生評価のどの項目が授業評価の上下に関与するか断言できないが、授業評価をする場合、授業に関する評価に加えて、学生自己評価項目である授業の予習・復習、授業への集

中、科目への関心なども併せ調査することを提案したい。

通常の授業評価では、授業成績の関連を見ることは難しい。今回授業成績と学生自己評価の間に相関が見られたことから、今後授業評価結果をみる場合は、学生の自己評価の上位・下位別に、検討することも必要であろう。

5. お わ り に

授業評価を目的にしたアンケート調査は無記名のため学生自身の評価が甘くなりがちと思われたが、試験直後に受講姿勢調査を併せて実施したので、学生の自己評価を表す数字がでたようだ。

授業に関する項目について、成績の下位グループで、授業の興味・関心を呼び起こす項目の評価が比較的低かったことを素直に受け止め、来年度の授業に活かす工夫をしていきたい。

最後に、SPSSによる分析等に多大なご協力をいただきました福岡教育大学 長山芳子教授に深謝いたします。

6. 参 考 文 献

- 1) 島名正英：愛知女子短期大学のシラバスについて、平成5年度私立短大秘書教育担当教職員研修会報告書、38-49、(1993)
- 2) 今井裕子：学生の授業評価について、広島文教女子大学生生活科学研究会誌、15、1-5 (1997)

Summary

The questionnaire survey of "items of a lesson" and the "items of student's attitude towards a lesson" was investigated for members of clothing construction as one of the evaluation of university education by students.

The members of this class were divided into two groups with score on the first semester examination. The evaluation values of questionnaire items for two groups were analyzed by comparison of test for the mean.

Consequently, concerning "this lesson is of immense interest and touched me deeply", there was significant difference at 0.01 level between the evaluation values of two groups on this item. As to the questions on student's attitude towards this lesson, there were significant differences at 0.01 level between two groups in five among eight items. These results showed that the high score students were more interested in the contents of this lesson and acquired something by themselves, or again the students who were more interested and sparked in this lesson got high score and also assessed self-evaluation.